

地域医療連携だより

えん

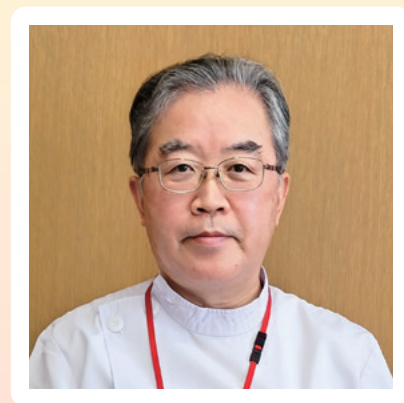
発行日：令和4年10月 発行所：富山赤十字病院 富山市牛島本町2丁目1番58 TEL. 433-2492 発行責任者：高田 裕之

腎臓・リウマチ内科について

副院長兼腎臓・リウマチ・感染症内科部長 川根 隆志

平素より地域の先生方には多大なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。当院の腎臓・リウマチ内科について簡単にご紹介いたします。

まず腎臓内科についてご説明します。地域の先生方から多いご紹介は検尿異常と腎機能低下に関するものです。画像を含めた精査を行い腎萎縮、抗凝固剤等の服用がなければ積極的に腎生検を勧めています。腎生検は5日間程度の入院が必要で年間20例ほど実施しています。腎機能低下または検尿異常の患者さんがおられましたらご紹介をよろしく願いいたします。腎臓内科の仕事のもう一つの柱は透析管理です。2021年の当院の実績では1年間に新たに42人透析に導入しました。うち糖尿病性腎症による腎不全が23人でした。導入スタイルも様々で腎不全療法選択の説明後に内シャントを作成し平和裏に導入できた症例も多いのですが最近では、うっ血性心不全、高カリウム血症などで緊急導入される患者さんが増えています。透析導入後、安定した患者さんは近隣の透析ができる医療施設様に転院のうえ維持透析をお願いしています。受け入れていただいているご施設様には改めて感謝申し上げます。当科の新しい活動として2021年に腎不全療法選択外来（「えん」108号で紹介）、2022年に腎臓病教室を始めました。現在は完全予約制ですが、つかみどころのない腎疾患を少しでも多くの患者さんとそのご家族に理解していただけるように努めて参ります。



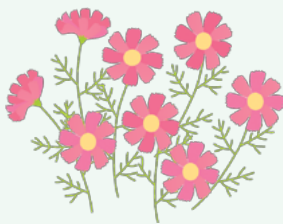
次にリウマチ内科についてご説明します。ご紹介の中心は関節症状のある患者さんと原因不明の炎症があり膠原病を疑っている患者さんです。近年、リウマチ因子、抗核抗体、抗CCP抗体などをきちんと調べてからご紹介下さる先生方も増えています。リウマチ・膠原病の診断は初期には必ずしも簡単ではなく当院のリウマチセンター（整形外科医師も待機）とも院内連携をはかりながら正確な診断と適切な治療に結び付けています。お困りの患者さんがおられましたらお気軽にご紹介いただくと幸いです。

現在当院では腎臓・リウマチ性疾患を内科医3名が担当しています。今後も地域における腎臓・リウマチ性疾患診療に微力ながらも貢献して参りたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

第79回地域医療連携の会

令和4年8月26日(金)午後7時より、富山赤十字病院教育研修棟3階講堂において「第79回地域医療連携の会」が開催されました。開業医の先生10名、当院医師、看護師、メディカルを含め総勢51名の参加がありました。

第2循環器内科部副部長 東 雅也医師より「地域連携による新たな心不全治療の形」、心臓血管外科部長 池田 真浩医師より「大動脈解離とステントグラフト」の演題で発表があり、質疑応答や意見交換が行われました。



地域連携による新たな心不全治療の形

第2循環器内科部副部長 東 雅也



現在、高齢化に伴い心不全患者は増加の一途をたどっています。心不全パンデミック状態になると、入院が必要な心不全患者さんであふれ、病院が患者さんを受け止めきれなくなる事態が予想されます。心不全は何らかの基礎疾患があり、それが進行することで症候性心不全に発展し、増悪を繰り返しながら難治性となり、死に至る疾患です。まずはリスクがある段階での、高血圧や虚血性心疾患、弁膜症、不整脈などに対する介入が大切です。症候性心不全となって以降は、増悪による入院は心機能を低下させるだけでなく、運動耐用能低下によるADL低下を招きます。入院時にはその都度、症状の改善のほか、原因と増悪因子の検索を行います。再入院を避けるためには早期の介入が必要です。当院では心不全テンプレートを使用し病診連携を、また心不全手帳で患者と医療機関の連携をとり、心不全による入院を減らすことを目指していきます。

大動脈解離とステントグラフト

心臓血管外科部長 池田 真浩

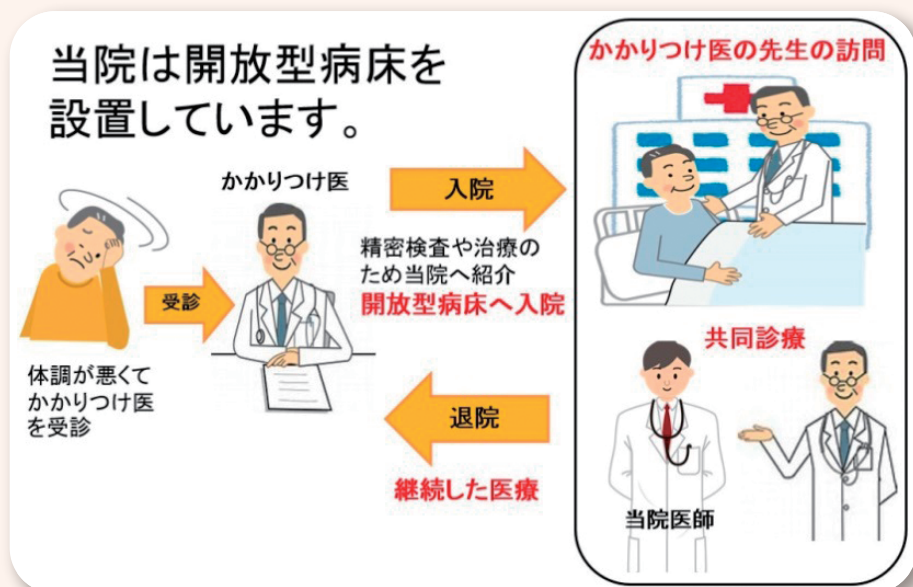


過去15年間の当院に搬送された急性大動脈解離は281例(A : B = 6 : 4)で、年齢分布のピークは70~80才。A型は、40%が手術、30%が保存療法、30%がCPA搬送であった。B型は、91%が保存療法で、手術は8%、CPA搬送は1%にすぎなかった。A型に対する手術は、依然open surgeryしかないが、耐術可能な場合は、弓部置換術+オープンステントグラフト(FET)内挿術が選択される。上行置換術の方が低侵襲だが、弓部置換+FETならば、将来に再手術が必要になった場合、胸部ステントグラフト(TEVAR)で対処できるからである。B型では、保存療法の急性期予後は良好である一方で、慢性期に偽腔が拡大して動脈瘤になる場合があり、その治療法に難渋する。そのため発症1年以内にTEVARでentryを閉鎖し、動脈瘤化を回避する治療法が脚光を浴びており(preemptive TEVAR)、当院でも積極的に施行している。



開放型病床をご利用ください

当院では内科4床・外科2床・整形外科2床・小児科2床の計10床の開放型病床を設けています。患者さんがいつも診ていただいているかかりつけ医の先生と、当院の医師とが共同して検査や治療に当たることで、患者さんが安心して入院でき、また退院されても確実に継続医療が実現できるところに大きなメリットがあります。どうぞご利用ください。



腎臓病教室について

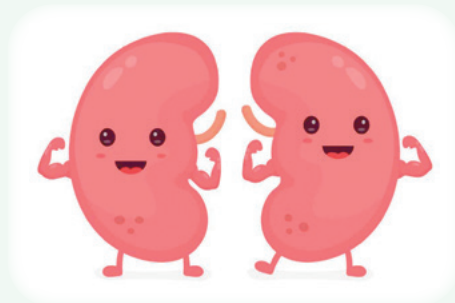
2階外来看護係長 橋本 美紀

慢性腎臓病（CKD）の患者数は、1,330万人（成人のおよそ8人に1人）と推計されており、新たな国民病とも言われています。糖尿病や高血圧などの生活習慣病や慢性腎炎、加齢など原因はさまざまであり、腎臓の機能が大きく低下してしまうと身体に多くの影響が現れます。失われた腎臓の機能が回復する見込みはほとんどないため、慢性腎不全の進行を予防することが重要となってきます。そのためには病院での診療だけでなく、適切な食事療法、規則正しい生活、正しい服薬など患者さん自身が積極的に治療に取り組み、自己管理を行うことが最も大切です。



そこで富山赤十字病院では、患者さんの自己管理の手助けとなるように、令和4年2月から慢性腎不全の患者さんとそのご家族を対象に腎臓病教室を開催しています。腎臓病教室の1回の受講時間は1時間とし、3か月後にフォローを行う2回で構成しています。日々の生活が病気の経過に大きく影響を及ぼすため、①自身の腎臓の状態が理解できる②日常生活の注意点が理解できる③自己管理の必要性が理解できることを目的に、医師だけでなく看護師、栄養士、薬剤師がテーマに合わせて分担してお話しさせていただきます。

この教室は、私たちが経験し学んだことを、皆さんの生活に役立てていただければと考え始めました。実際に参加された方からは、日頃から疑問に感じていたことや不安に思っていたことなど相談しやすいといった感想もいただいております。病気の治療は正しい知識を持つことから始まり、腎臓病の療養生活は患者さんだけでなく、ご家族、患者さんの診療に携わる医療者みんなが協力して作り上げていくものだと思います。皆さんが前向きに病気と向き合って穏やかな毎日を過ごせるよう、医師、看護師、栄養士、薬剤師が専門的な分野からサポートしていきたいと考えています。どうぞ、よろしく願いいたします。



世界糖尿病デー

糖尿病看護認定看護師 沢田 悦子

毎年、11月14日を含む一週間を「全国糖尿病週間」として全国各地で啓蒙活動が行われます。今年は、テーマを「偏見にNO!～糖尿病には、あなたの正しい理解が必要です～」とし、糖尿病を持つ人が不当な偏見や差別（スティグマ）を受けないように、ポスター掲示やデジタルサイネージ等により正しい糖尿病への知識を呼びかけます。スティグマとは、一般に「恥・不信用のしるし」「不名誉な烙印」を意味します。ある特定の属性により、いわれのない差別や偏見の対象となることです。糖尿病の例としては、生命保険に加入できない、住宅ローンが組めない、就職に不利になる、等が挙げられます。なぜスティグマが生じるのかというと治療手段が限られていた過去のイメージの「糖尿病になると失明や透析、脳梗塞になる」が定着したと考えられます。スティグマによる不利益から健診で異常を指摘されても「糖尿病」と診断されるのが嫌で受診しない人もいます。過去には「糖尿病に罹患すると寿命が10年短くなる」と言われていました。しかし、実際には、糖尿病の治療の進歩とともに予後は大きく改善し、糖尿病患者さんと一般人口の平均余命にはほとんど差がないことが報告されています。医療では、糖尿病患者さんの合併症予防や様々な心理負担に対処するために、多面的なアプローチが必要となります。当院では、患者さんがより上手く糖尿病と付き合っていけるように、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、検査技師、理学療法士による糖尿病教室の開催や、糖尿病教育外来による個別指導を行っています。

糖尿病週間では、コロナ禍にて相談コーナーは設けていませんが、より多くの方が糖尿病に対する理解を深め、予防・治療・療養に役立てて頂ければ幸いです。



11月14日(月)
17時～21時
病院正面外壁をブルーに
ライトアップします。



11月、12月の外来診療に関する医師不在日案内

11月

科名	医師名	不在日
歯科口腔外科	長野 愛	10日(木) 11日(金)
脳神経外科	桑山 直也	9日(水) 11日(金) 16日(水)
	津村貢太郎	10日(木)
小児科	津幡 眞一	17日(木)
外科	竹原 朗	8日(火) 22日(火)
耳鼻いんこう科	赤荻 勝一	16日(水)PM 17日(木) 18日(金)
内科	川根 隆志	4日(金)PM 25日(金)PM
	仙田 聡子	4日(金)
	若林 祐介	1日(火)

12月

科名	医師名	不在日
小児科	津幡 眞一	21日(水)PM
呼吸器外科	宮津 克幸	1日(木)
内科	平岩 善雄	14日(水)



※不在日には、代診を立てております。

患者支援センターからのお知らせ

「第80回地域医療連携の会のお知らせ」

日時：令和4年11月16日(水) 午後7時より

場所：富山赤十字病院教育研修棟 3階講堂

演題：歯科◇「骨吸収抑制薬関連顎骨壊死(ARONJ)の予防と治療」

歯科口腔外科部副部長 石戸 克尚

演題：血液内科◇「食欲不振・高カルシウム血症を契機に診断された多発性骨髄腫の1例」

第1血液内科部副部長 望月 果奈子



※みなさまの参加をお待ちしております。

感染防止対策を十分に行った上での開催となります。ご理解・ご協力の程よろしくお願いたします。新型コロナウイルス感染症流行の状況によっては、中止となる可能性があります。中止の場合は改めてご連絡させていただきます。

編集後記

今年の夏前から、お天気と気分が許せば自転車で通勤しています。軽い運動とガソリン代節約のため、と思って始めましたが、朝夕20分余りの道程が今は楽しみになっています。車で10年以上通っていたはずの通勤路ですが、今まで気に留めたことがなかったお店や道の花に気づいたり、吸い込む空気に季節の移り変わりを感じたり。このところは夏の強い日差しから一転、高い空とひんやりした風に秋の深まりを感じます。ところによっては街路樹の葉先も色づいてきました。この原稿がお手元に届く頃にはカサカサの落ち葉を踏みながらの通勤になるのでしょうか。今年は手袋とコートを新調し、雪が降るまでは何とか自転車で通えないかな、と考えています。

もうすぐ富山の厳しい冬がやってきますが、皆様もどうぞ暖かくして、お身体にお気をつけてお過ごしください。

(患者支援センター 社会福祉士 寺林 麻子)



紹介依頼など、下記までお問い合わせください。

富山赤十字病院
患者支援センター

TEL : 076-433-2492 FAX : 076-433-2493

e-mail : byousinrenkei@toyama-med.jrc.or.jp

夜間・休日のお問い合わせは…TEL : 076-433-2222(代表)

Fax : 076-433-2410(夜間・休日のみ)